



# 松本 きみ

活動報告  
令和8年号  
冬

## ◇松本きみ公式HP

<https://kimi-matsumoto.com/>



## 喜びの声 子育て支援の会

Tel : 080-6285-5593

Mail : yorokobi@kimi-matsumoto.com



## 松本きみプロフィール

- ◆川越市南大塚在住 ◆昭和55年4月13日生 2児の母 ◆文京学院大学卒 在学中に保育士・幼稚園教諭資格を取得
- ◆川越市内の南双葉幼稚園に勤務後、市内の保育園にて主任保育士、園長を務める。
- ◆令和5年4月の川越市議会議員選挙にて当選。現在1期目。川越志政会所属。
- [所属] 小江戸・こども支援推進協議会アドバイザー

令和8年1月発行 第11号

## 日々の活動



南大塚自治会第7、8ブロックの防災訓練に参加させていただきました。幅広い年代のみなさまに参加してもらえるように、クイズ形式の防災訓練、主催者のみなさまのアイデアが光ります！子どもたちも楽しく参加できていました。災害は、急にくるため日頃の訓練、顔合わせは大切です。



川越少年刑務所で開催された「川越矯正展」に参加しました。農作業による種の育成をはじめ、障がいのある方への対応も含めた更生支援の取り組みが紹介されていました。



社会福祉法人けやきの郷初雁の家で開催された「けやき祭」に参加させていただきました。久しぶりの開催となった今回の祭りは、地域と福祉をつなぐ大切な場であることを改めて感じる機会となりました。



私立幼稚園・認定こども園協会の教職員大会に参加させていただきました。これからも子どもたちのために頑張ってほしいです。私も先生たちのために尽力していきます。



小江戸川越ハーフマラソンに参加しました！川越の街並みを眺めながら走り、ゴール後には川越汁をいただきました。声援をくださったみなさまありがとうございました。



大東地区文化振興会・文化祭・芸能発表・老人クラブ連合会・芸能大会で挨拶をさせていただきました。みなさまの素晴らしい発表を見させていただきました。



かわごえ産業フェスタに参加させていただき、友好都市のみなさまのお話しや企業のみなさまの取り組みを見させていただきました。



霞ヶ関北市民センターの開所式に参加させていただきました。新しくなった市民センターが多くのみなさまに愛される施設として活用されますように。



地域の方々と公園の花植えのお手伝いをしました。公園の維持管理も自治会で行ってくださいり感謝です。



<改善活動>  
農家さんから雨が降ると砂利や砂が入り、畑仕事に支障がでるということで、関係課と相談してガードを作りました。

## &lt; 1. 教員の働き方改革について &gt;

## ・一般質問をした理由

近年、全国的に教員の長時間労働や多忙化が深刻化し、教員不足は社会全体の課題となっています。特別な支援を必要とする子どもへのきめ細やかな対応の増加、保護者対応の複雑化、そして「教員は多忙」というイメージの定着など、複合的な要因が重なり教員志望者そのものが減少しています。若手教員の離職や、教員の確保が難しくなっている状況に強い危機感を抱いています。

## Q1 教職員の多忙化の現状と課題について伺いたい？

A1 現状については、令和7年6月に実施した教職員の勤務状況における、1日の職種別平均時間外在校等時間の状況は、校長が1時間48分、教頭が2時間16分、教諭等は2時間2分となっている。日常の授業準備や教材研究に加えて、事務作業や保護者への対応など、教職員の業務は多岐にわかつており、勤務時間を越える在校時間が常態化している状況である。課題については、令和7年度に実施した勤務実態調査の結果によると、授業を除いた平日1日の従事時間の長い業務内容として、授業準備や書類作成等の事務作業が挙げられることから、業務量の削減や事務の効率化が課題となっている。また、時間外在校等時間が一番長くなっている教頭への事務負担の軽減など、特定の教職員への業務集中を解消することなども課題であると捉えている。

## Q2 市が行っている働き方改革の取組内容について伺いたい？

A2 児童生徒の学籍管理や成績処理等の事務的な処理に係る負担軽減については、情報処理ソフトウェアとして統合型校務支援システムを導入し、学校事務の効率化を図っている。また、教員が行う業務のうち、学習プリント等の印刷や採点業務などの負担軽減が可能な業務については、予算上可能な範囲で教員業務支援員いわゆるスクール・サポート・スタッフを一部の学校に配置をしている。加えて、教職員の時間外在校等時間の抑制などのために、学校の電話受付時刻を設定し、時間外の在校時間の削減に努めている。さらに、各学校の実態に応じて仕事と生活の調和を図ることを目的として、「ノーワークデー」や「ノーワークデー」、「ノーミーティングデー」を設定するなど、工夫した取組を行うことを推奨している。

## ・感想

現場の先生方からは、「もっと子どもに寄り添いたい」「授業準備に十分な時間をとりたい」という強い思いを伺っています。その一方で、人手不足により時間が確保できず、求められる支援に十分応じられないという葛藤もあると理解しています。未来を担う子どもたちの教育を支えてくださる教職員の皆様が誇りを持って働き続けられるよう、しっかりと支えていただきたいと思います。

## &lt; 2. 父子家庭における支援について &gt;

## ・一般質問をした理由

近年、ひとり親家庭は増加していますが、父子家庭に特化した支援は十分とはいえません。報道でも「声を上げづらい父親」の特集が組まれ、相談先がわからず精神的に追い込まれるケースが紹介されました。父子家庭は数が少なく、課題が可視化されにくいため、支援に繋がりにくい現状があります。

## Q3 川越市におけるひとり親家庭の世帯数について伺いたい？

A3 ひとり親家庭を対象として支給している児童扶養手当受給者数は、令和7年11月末日時点で、母子家庭世帯が1,677世帯、父子家庭世帯が89世帯、合計1,766世帯である。

## Q4 困難を抱える父子家庭であっても、相談先が分からず、分かっていても相談しづらいと聞いているが、父子家庭の相談について、どのように周知を行っているか伺いたい？

A4 本市が実施しているひとり親家庭相談は、母子家庭、父子家庭を区別せず、ひとり親家庭の相談窓口として、これまで周知を行ってきた。引き続き、父子家庭をはじめ、困っているひとり親家庭が、相談しやすい窓口であるように、相談先の情報提供の方法や、相談しやすい窓口のあり方などについて、他市の事例なども参考に調査・研究し、改善してまいります。

## Q5 困難を訴えづらい父子家庭の潜在ニーズを把握するためにはどのような方法があるか伺いたい？

A5 父子家庭を含めたひとり親家庭への支援である児童扶養手当の支給にあたり、毎年現状届を提出していただく際に、家庭状況の聞き取りを行い、その内容に応じて相談先や支援の案内を行っている。指摘を踏まえて、現状届提出時の聴き取りの工夫のほか、父子家庭の潜在ニーズを効果的に把握する方法について、他市の事例等を参考に今後検討していきたいと考えている。

## Q6 孤立防止のための父子家庭同士のつながりづくりの場について、どのように考えているか伺いたい？

A6 孤立により、悩みごとや困りごとが複雑化・深刻化してしまう場合もあるため、孤立しがちなひとり親家庭にとって、ご家庭同士のつながりの場が重要であることは認識している。これまでひとり親家庭同士がつながりを得る場として、茶話会や、料理体験、工場見学を情報交換事業として企画、実施したことがあるが、その内容等は母子家庭向けのものであった。今後、情報交換事業を企画するにあたっては、父子家庭も参加しやすいような内容等を検討していきたいと考える。また、父子家庭に特化した情報交換事業の開催の必要性については、そのニーズを含め慎重に検討していきたい。

## ・感想

支援は、予算を使うことが目的ではなく、必要とする家庭に確実に届くことが重要です。特に父子家庭では女児の成長に伴う課題や性教育の問題に対応が難しいケースが多く、市として孤立させない仕組みづくりが求められます。父子家庭は、表に見えにくい困難を抱えているにもかかわらず、支援に繋がりにくく、孤立してしまうケースも多いと伺っています。私は、父子家庭の皆さんが孤立せず、安心して相談できる環境を整えることが非常に重要だと考えています。必要な支援が必要な人に届く、その当たり前を実現するため、市としても一歩踏み出させていただきたい。そして、父子家庭の皆様が胸を張って子育てができるよう、支えていきたいと思います。